

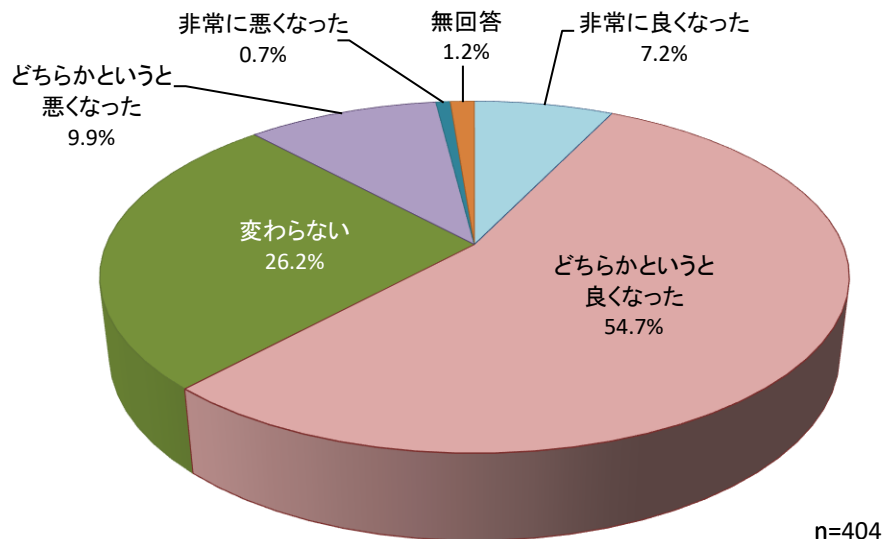
## 5. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言くなった」を合わせた【良くなった(計)】が6割強

問17	本市の景観は10年前と比べてどう感じますか。	(○は1つ)
		n=404
1	非常に良くなった	7.2%
2	どちらかというと言くなった	54.7%
3	変わらない	26.2%
4	どちらかというと言くなった	9.9%
5	非常に悪くなった	0.7%
	(無回答)	1.2%

<図IV-5-1>全体



宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるかについては、「非常に良くなった」が7.2%、「どちらかというと言くなった」が54.7%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は61.9%であった。一方、「どちらかという言くなった」が9.9%、「非常に悪くなった」が0.7%で、これらを合わせた【悪くなった(計)】は16.9%であった。また、「変わらない」が26.2%であった。(図IV-5-1)

<参考>

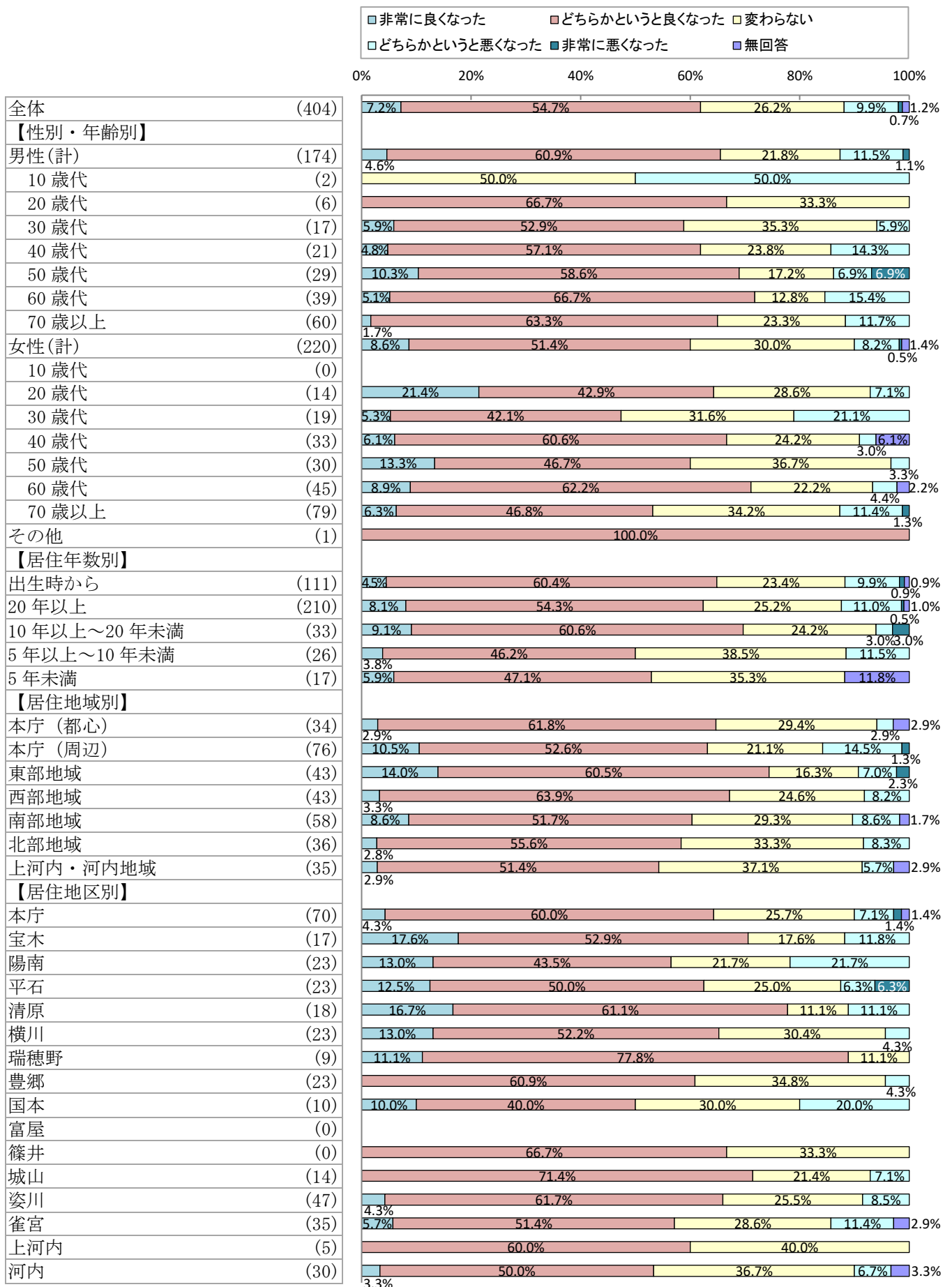
性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<その他>を除くと、<男性/60歳代>が71.8%で最も高かった。一方、「どちらかという言くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった(計)】は<男性/10歳代>が50.0%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<10年以上~20年未満>が69.7%で最も高かった。一方、【悪くなった(計)】は<20年以上><5年以上~10年未満>がともに11.5%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<東部地域>が74.5%で最も高かった。一方、【悪くなった(計)】は<本庁(周辺)>が15.8%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住地区別でみると、【良くなった(計)】は<瑞穂野>が88.9%で最も高かった。一方、【悪くなった(計)】は<陽南>が21.7%で最も高かった。(図IV-5-2)

< 図IV-5-2 > 性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

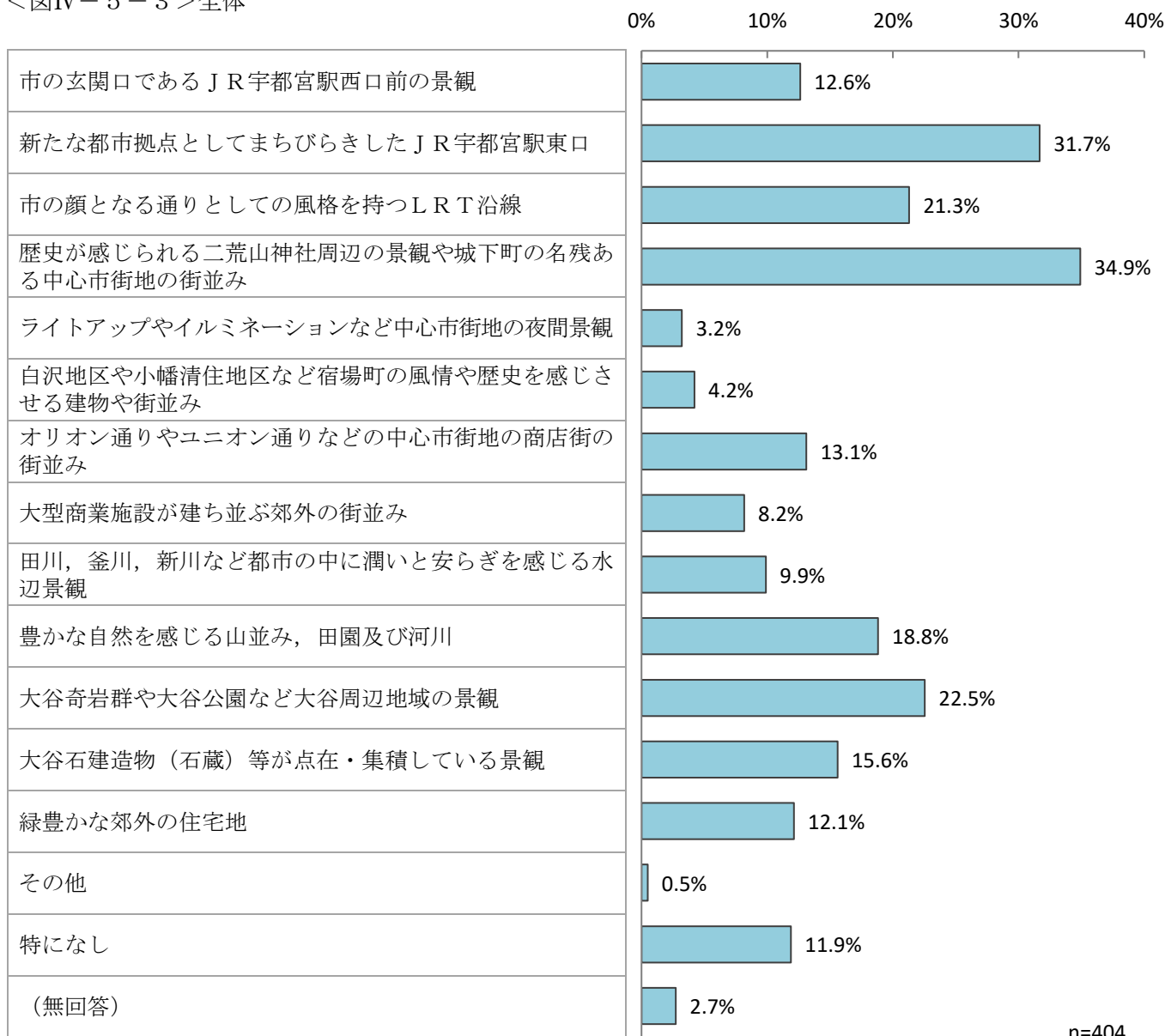


(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

◇ 「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」が3割半ば

問18	宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。	(○は3つまで)	n=404
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅西口前の景観		12.6%
2	新たな都市拠点としてまちびらきしたJR宇都宮駅東口		31.7%
3	市の顔となる通りとしての風格を持つLRT沿線		21.3%
4	歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み		34.9%
5	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観		3.2%
6	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み		4.2%
7	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み		13.1%
8	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み		8.2%
9	田川、釜川、新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観		9.9%
10	豊かな自然を感じる山並み、田園及び河川		18.8%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観		22.5%
12	大谷石建造物（石蔵）等が点在・集積している景観		15.6%
13	緑豊かな郊外の住宅地		12.1%
14	その他		0.5%
15	特になし		11.9%
	(無回答)		2.7%

<図IV-5-3>全体



「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」が 34.9% で最も高く、次いで「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」が 31.7% であった。(図IV-5-3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は<男性/10歳代>が 50.0%、「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は<男性/20歳代>が 50.0% であった。(図IV-5-4)

居住年数別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は、<5年以上～10年未満>が 42.3% で最も高かった。「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は、<20年以上>が 35.2% で最も高かった。(図IV-5-4)

居住地域別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は<西部地域>が 47.5% で最も高かった。「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は<本庁(都心)>が 38.2% で最も高かった。(図IV-5-4)

居住地区別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は<姿川>が 48.9% で最も高かった。「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は<瑞穂野>が 55.6% で最も高かった。(図IV-5-4)

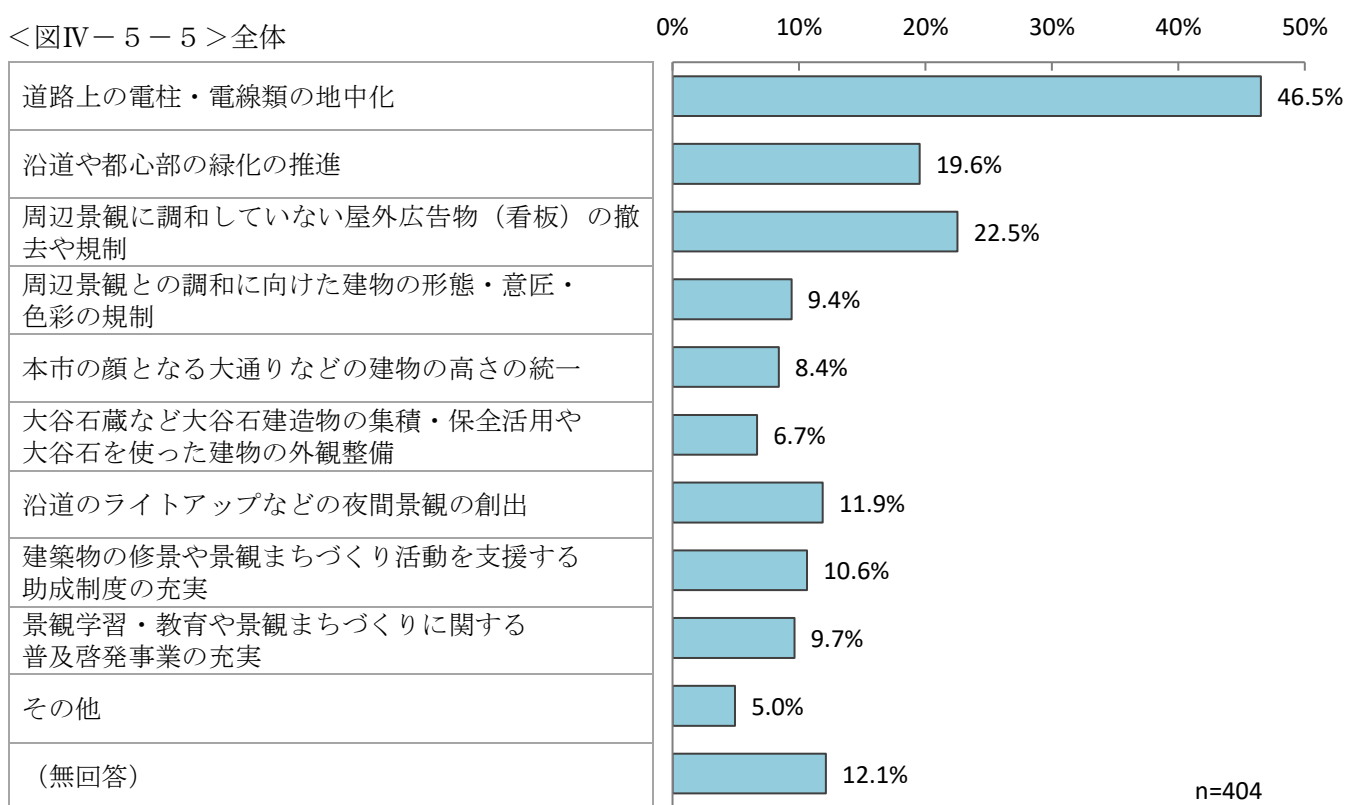


### (3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

#### ◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が5割弱

問 1 9 良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。		(○は2つまで)
		n=404
1	道路上の電柱・電線類の地中化	46.5%
2	沿道や都心部の緑化の推進	19.6%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制	22.5%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	9.4%
5	本市の顔となる大通りなどの建物の高さの統一	8.4%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備	6.7%
7	沿道のライトアップなどの夜間景観の創出	11.9%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	10.6%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	9.7%
10	その他	5.0%
	(無回答)	12.1%

<図IV-5-5>全体



良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が46.5%で最も高く、次いで「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」が22.5%、「沿道や都心部の緑化の推進」が19.6%と続いている。（図IV-5-5）

#### <参考>

性別・年齢別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<男性/50歳代>が65.5%で最も高かった。（図IV-5-6）

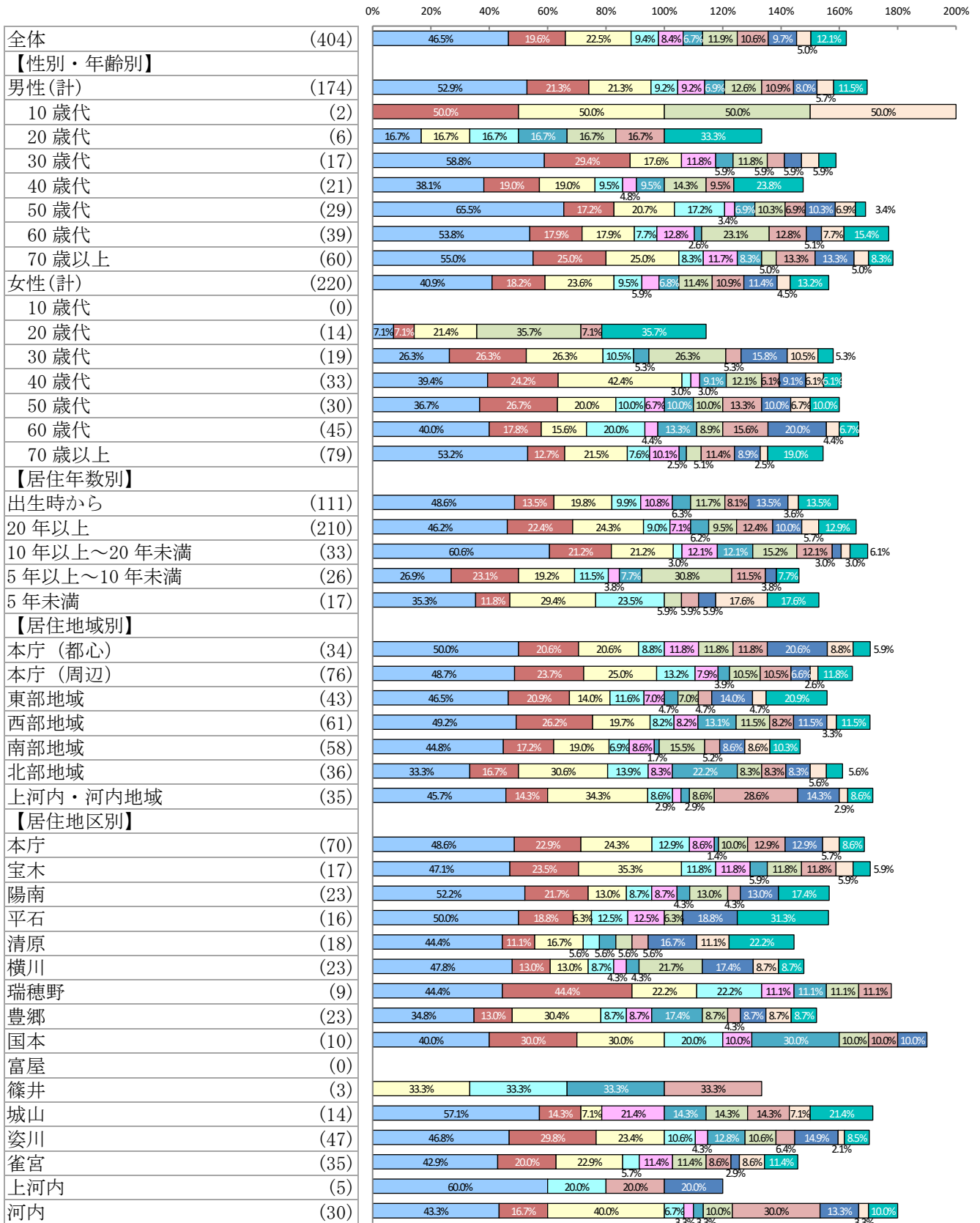
居住年数別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は、<10年以上～20年未満>が60.6%で最も高かった。（図IV-5-6）

居住地域別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<本庁（都心）>が50.0%で最も高かった。（図IV-5-6）

居住地区別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<上河内>が60.0%で最も高かった。（図IV-5-6）

<図IV-5-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

- 道路上の電柱・電線類の地中化
- 周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制
- 本市の顔となる大通りなどの建物の高さの統一
- 沿道のライトアップなどの夜間景観の創出
- 景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実
- 無回答
- 沿道や都心部の緑化の推進
- 周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制
- 大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備
- 建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実
- その他

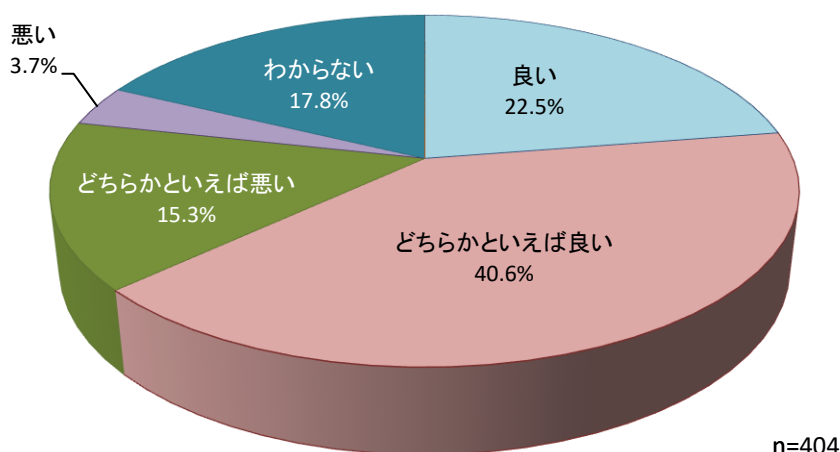


(4) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象

◇ 「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が6割強

問 2 0	バス及び鉄道やL R Tの車両などのラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）について、あなたは、どのような印象をお持ちですか。	(○は1つ)
		n=404
1	良い	22.5%
2	どちらかといえば良い	40.6%
3	どちらかといえば悪い	15.3%
4	悪い	3.7%
5	わからない	17.8%
	(無回答)	0.0%

<図IV-5-7>全体



ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象については、「良い」が22.5%、「どちらかといえば良い」が40.6%で、これらを合わせた【良い（計）】は63.1%であった。一方、「悪い」が3.7%、「どちらかといえば悪い」が15.3%で、これらを合わせた【悪い（計）】は19.0%であった。（図IV-5-7）

<参考>

性別・年齢別でみると、【良くなった（計）】は<その他>を除くと、<男性/10歳代>が100.0%、一方、「どちらかというとも悪くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった（計）】は<男性/70歳以上>が28.3%で最も高かった。（図IV-5-8）

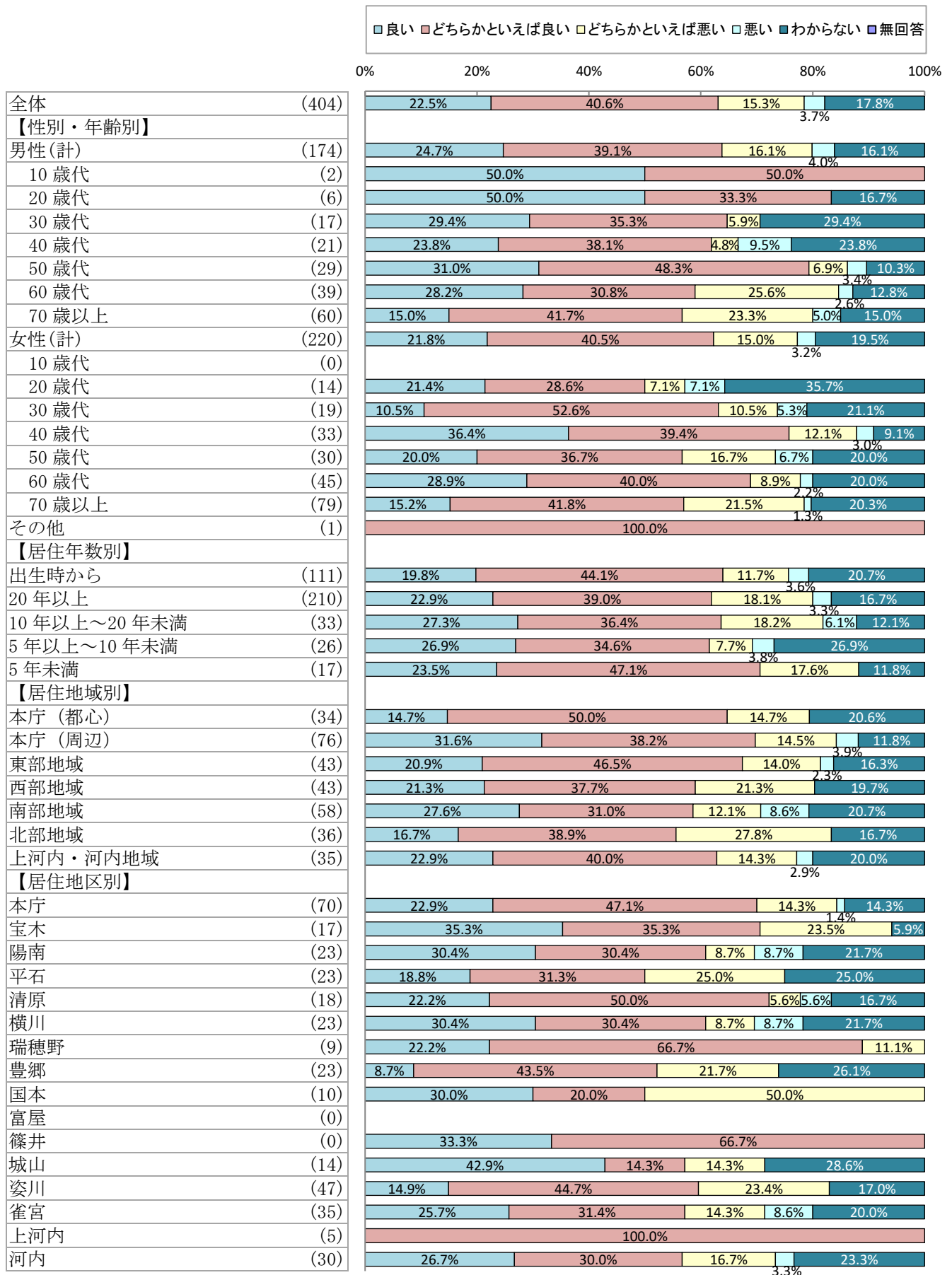
居住年数別でみると、【良くなった（計）】は<5年未満>が70.6%で最も高かった。一方、【悪くなった（計）】は<10年以上～20年未満>が24.3%で最も高かった。（図IV-5-8）

居住地域別でみると、【良くなった（計）】は<本庁（周辺）>が69.8%で最も高かった。一方、【悪くなった（計）】は<北部地域>が27.8%で最も高かった。（図IV-5-8）

居住地区別でみると、【良くなった（計）】は<篠井><上河内>が100.0%で最も高かった。一方、【悪くなった（計）】は<国本>が50.0%で最も高かった。（図IV-5-8）



<図IV-5-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

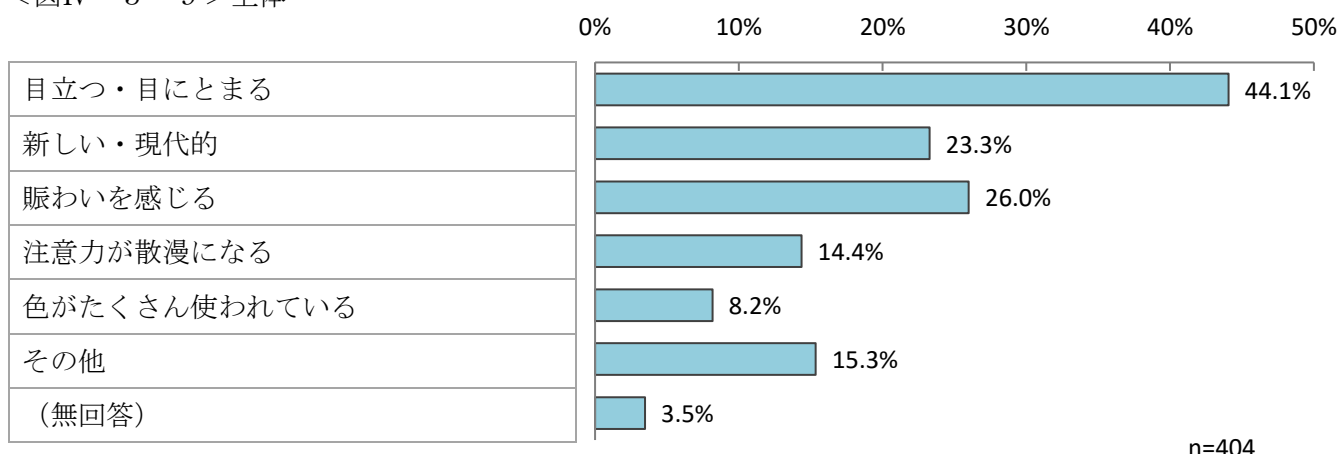


(5) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点

◇ 「目立つ・目にとまる」が4割半ば

問21	問20でそのような印象を持たれたのはどのような点についてですか。	(○は2つまで)
		n=404
1	目立つ・目にとまる	44.1%
2	新しい・現代的	23.3%
3	賑わいを感じる	26.0%
4	注意力が散漫になる	14.4%
5	色がたくさん使われている	8.2%
6	その他	15.3%
	(無回答)	3.5%

<図IV-5-9>全体



ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点については、「目立つ・目にとまる」が44.1%で最も高く、次いで「賑わいを感じる」が26.0%、「新しい・現代的」が23.3%と続いている。（図IV-5-9）

<参考>

性別・年齢別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<その他>を除くと、<女性/40歳代>が63.6%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が55.2%であった。「賑わいを感じる」は<男性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が42.2%であった。（図IV-5-10）

居住年数別で見ると、「目立つ・目にとまる」は、<5年未満>が64.7%で最も高く、次いで<出生時から>が45.0%であった。「賑わいを感じる」は、<10年以上～20年未満>が30.3%で最も高く、出生時から>が27.9%であった。（図IV-5-10）

居住地域別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<北部地域>が55.6%で最も高く、次いで<南部地域>が51.7%であった。「賑わいを感じる」は<本庁（周辺）>が36.8%で最も高く、次いで<西部地域>が27.9%であった。（図IV-5-10）

居住地区別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<篠井>が100.0%、次いで<上河内>が60.0%であった。「賑わいを感じる」は<宝木>が41.2%で最も高く、次いで<上河内>が40.0%であった。（図IV-5-10）

< 図IV-5-10 > 性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

